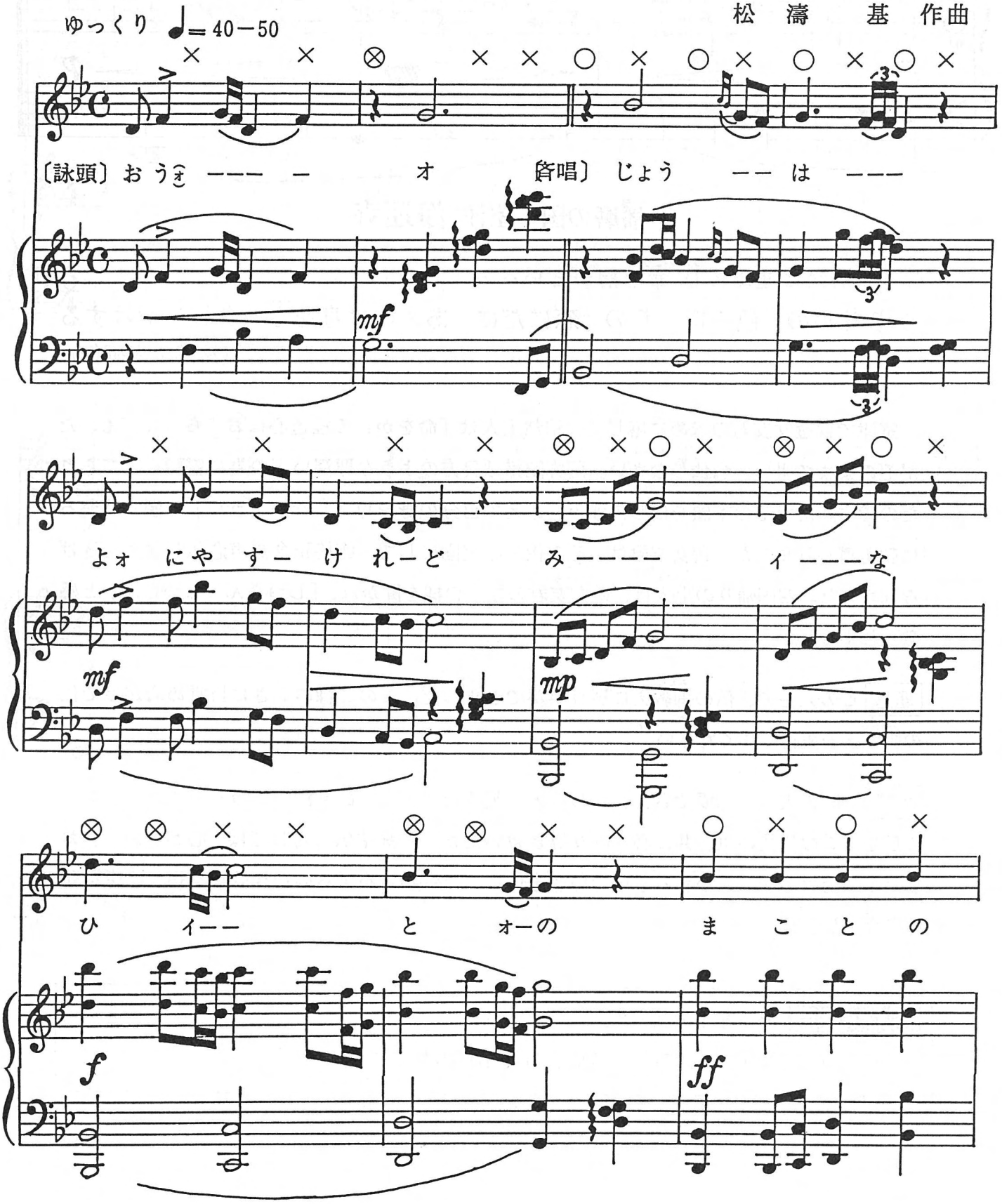
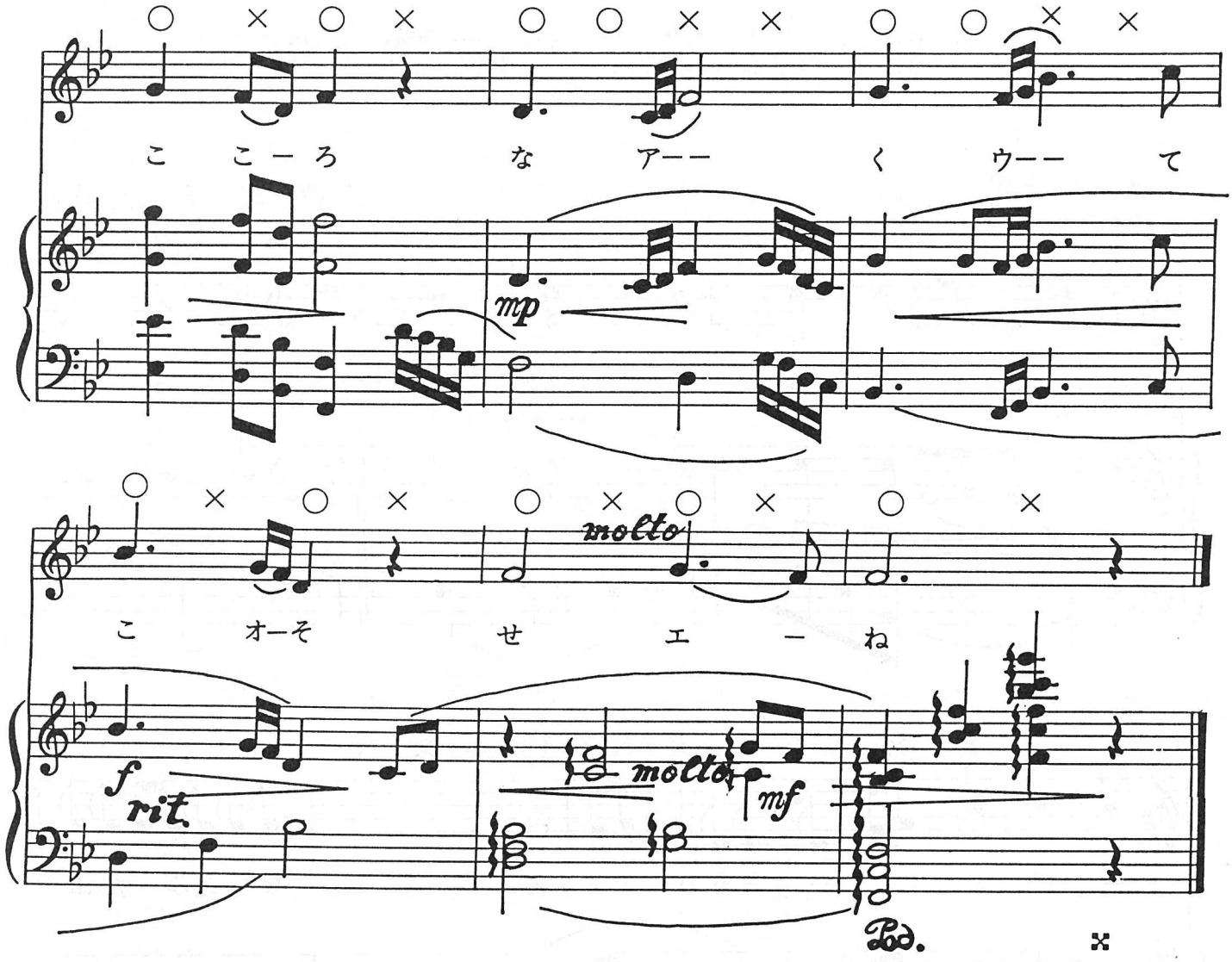
至誠心の御詠歌（至誠調）

松　濤　　基　作曲
ゆっくり ♩= 40－50
〔詠頭〕おうぇ ――― ― オ 〔唱〕じょう ―― は ―――
よぉ にや すー けれーど みーーーー ぃーーーな
ひ ぃーー と ぉーの ま こ と の
mf
mp
f
ff

（歌詞は９１ページ）

ポイント注意

- １小節目のシンコペーション、２・３小節目の大きいシンコペーションをしっかりと。
- 「まことの」は４拍子の強弱のリズムを強調します。

至誠心の御詠歌

「三心の中の至誠心のこころを」

往生は　よにやすけれど　みな人の　まことの心　なくてこそせね

（法然上人御作）

題意 至誠心、深心、廻向発願心の三心の中、至誠心はお念仏を申す信仰の基礎であり、真実心のことです。真実心の反対は虚仮心で、人目を飾り外目と中味が異なる心です。至誠真実は飾らない素直な心のことです。

大意 お浄土に往生することは、ほんとうはたやすいことですよ。しかし、どんな人でも至誠真実の心がなくてはみ仏の願力にかなわず、往生を不可能にしてしまうのです。どうぞ心も振る舞いも共に誠の心で念仏相続して下さい。

参考
- 信をば一念に生ると信じ　行をば一形にはげむべし（法然上人）
- 只申せ　申す内にはおのずから　深きまこともおこりこそすれ（無能上人）

（楽譜は６８ページ）